

法勝寺旧蹟ほうしょうじのきゅうせき

〔下岡崎しもをかざき〕にあり、六勝寺ろくしょうじの一員にして、いにしへは洛東の大廈なり。金堂、講堂、阿弥陀堂、五大堂、

法華堂、薬師堂、九重塔、八角堂、常行堂、曼陀堂、不動堂、山王社、八十六間廻廊、南大門、西門、北門等巍々として嚴重たり。拾芥抄曰、承暦元年十二月十八日供養ありて、白川しらかは天皇行幸し給ふ。中興の祖は慈威上人じゐにて、天台浄土宗を兼学す。此人東坂本西教寺さかもとさいけうじを草創す。当寺応仁に亡びて後、金堂本尊薬師仏は西教寺さいけうじにうつす。塔壇〔当村の西北一町許にあり、九重の塔の跡なり〕五大堂跡〔塔の壇西三十間許、黒谷道くろだにみちの東側にあり。方十間余の芝生ありて、中に樗の木三株あり、土人三本木と称す。惣じて此辺は諸堂の旧跡にして、時々田畑より仏器金具数品を掘出す〕俊寛しゆんくわん屋敷〔同村東の藪の中にあり、法勝寺修行俊寛僧都しゆんくわんの住し跡

蹴上・安養寺あんやうじ／神明鳥居前しんめいとりのまへ

なりと。今坂本西教寺さかもとさいけうじの持物となる、中に荒神祠あり古の鎮守なり〕

糸桜のさかりに法勝寺をすぐとて

風 雅 立よらで過ぬと思へど糸桜こゝろにかゝる春の木のもと

浄妙寺関白

家 集 君が代に法のすぐるゝしるしかな光さしそふ西の月かげ

為 家

〔其外六勝寺の内、成勝寺の跡は東三条の北白川橋の東なり。延勝寺の跡は法勝寺の旧跡の西にあり。円勝寺の跡は延勝寺の旧跡の北にあり。尊勝寺の跡は岡崎村の西北車道の一町許西にあり。国勝寺の跡は二条の南鴨川の東にあり、都てこれを六勝寺といふ。何れも諸堂荘麗にして、落慶の日は帝行幸のよし拾芥抄に見へたり。共に応仁の乱に滅ぶ〕

鶴森ぬえのもり

〔下岡崎南の端西一町許田畑の中にあり。一堆の丘山にして上に樹木なし。いにしへ此地封境広くして東三条杜といふ。近衛院の御時、東三条の森の方より黒雲一村立来て御殿の上に覆へば、必帝劫させ給ひけり、頼政鳴弦の術を以て其怪鳥を退治、御感を蒙りしよし、平家物語に見へたり〕